

寒川町におけるビジネスホテル立地可能性 検討調査報告書

令和4年3月

寒川町商工会

調査委託：株式会社浜銀総合研究所

目 次

1. 本調査の目的と概要.....	1
(1) 本調査の目的.....	1
(2) 本調査の実施概要.....	1
2. ホテル事業の概観.....	2
(1) 宿泊業におけるホテルの位置づけ.....	2
(2) ホテルが備える機能や設備.....	3
① ホテルが備える機能と必要な設備についての基本的な考え方.....	3
② ホテルの機能と収益構造.....	4
(3) ホテルの分類と呼称.....	5
(4) ホテルの立地として求められる条件.....	6
① 法制度上の規定.....	6
② ホテル事業者等が立地可能性を検討する際の視点.....	6
(5) 近年のホテル産業の動向.....	8
① ホテル件数の推移.....	8
② 宿泊者数の推移.....	10
③ 客室稼働率の推移.....	12
3. 寒川町の立地及び周辺事業環境の整理.....	14
(1) 立地及び陸上交通の環境.....	14
(2) 寒川町の人口.....	17
① 人口の現状と将来推計.....	17
② 昼夜間人口比率.....	17
(3) 産業の状況.....	18
① 事業所数・従業者数.....	18
② 寒川町内の主要な製造業の企業及び事業所.....	19
③ 観光の状況.....	20
④ ホテル事業の観点から見た寒川町周辺の事業環境.....	21
4. ヒアリング調査結果に基づく町内のニーズと課題の整理.....	24
(1) ヒアリング調査実施概要.....	24
(2) ヒアリング調査から得られた情報の整理.....	25
① 町内事業者等から把握された寒川町の現状と課題.....	25
② ホテル事業者から見た寒川町の事業環境の評価.....	27
5. 調査結果のまとめと今後取り組むべき方向性の提案.....	29
(1) 現状におけるホテル立地可能性と課題.....	29
(2) 今後のホテル誘致実現に向けた取組の方向性.....	31
① ホテルのタイプや求める機能の検討.....	31
② 町内関係者との協力関係の構築.....	31
③ まちの賑わいづくり.....	31

1. 本調査の目的と概要

(1) 本調査の目的

寒川町商工会においては、将来にわたる地域や産業の活力の維持・向上を図るため、町内にホテルの誘致を検討しており、これまでも寒川町や町内事業者等と連携し、誘致に向けた準備に取り組んできた。

寒川町には、相模一宮と称され、全国から多数の参拝客を集める寒川神社が所在しているほか、大規模な工場が集積しているなど、観光需要・ビジネス需要の両面においてポテンシャルを有していると考えられる一方、現在町内にはホテルをはじめとする宿泊施設が立地しておらず、来町者の宿泊需要を受け止められていない状況にあると考えられる。

そこで、将来のホテル誘致に向けて、町内の宿泊ニーズについて整理し、今後の誘致活動に向けた検討を行う際の基礎資料とすることを目的として、「寒川町におけるビジネスホテル立地可能性検討調査」（以下、「本調査」という）を実施した。

(2) 本調査の実施概要

本調査においては、ホテル産業の概観や、寒川町を含めた県央・湘南地域の人口動態・産業動向を整理したうえで、町内の事業者やホテル事業者へのヒアリング調査を行い、寒川町におけるホテルの立地可能性、現在および今後の寒川町の状況を踏まえて整備が望ましい機能、またホテル誘致の実現に向けた今後の取組の方向性についての整理・検討を行った。

図表 1 本調査の実施概要

項目	概要
ビジネスホテルの誘致に向けた基礎情報の整理	・ホテル事業に関する専門書等を参考に、ホテルの分類や機能、事業成立に必要な条件等について情報の整理を行った。 ・また、寒川町及び近隣地域の事業環境を把握するため、人口や産業等に関する統計資料の収集・整理のほか、寒川町の近隣地域におけるホテル立地状況について情報の収集・整理を行った。
ビジネスホテル立地の可能性検討	・寒川町内におけるホテル需要や、ホテルに併設することが望ましい機能の検討を行うため、町内の事業者等へのヒアリングを実施した。 ・加えて、近隣地域にてホテル事業を展開する事業者に対し、ホテルの立地環境としての寒川町の評価や進出可能性等に関するヒアリングを実施した。

2. ホテル事業の概観

本章では、ホテル事業の概要やホテルの立地に必要とされる条件等について、以下のように整理した。

(1) 宿泊業におけるホテルの位置づけ

宿泊業の営業許可を取る際の指針となる「旅館業法」では、「旅館・ホテル営業」・「簡易宿所営業」・「下宿営業」の3種類の区分が存在している。

ホテルは「旅館・ホテル営業」として営業許可を得たもののうち、一般的に洋式スタイルの宿泊施設を指す。以前の旅館業では、宿泊施設について「旅館営業」と「ホテル営業」が区別されていたが、令和元年度の法改正に伴いこれらが統合された。ただし、旧旅館業法における分類は、現在でも様々な場面において、慣例的に使用されている。

旧旅館業法では、主に建物や設備に着目した分類がなされ、ホテルは「洋式（ベッドルーム）で10室以上」、旅館は「和式（畳部屋）で5室以上」、さらに客室の広さなどそれぞれ分類上の要件が定められていた。

本調査においては、旧旅館業法上の分類を踏襲し、旅館・簡易宿所・下宿営業の形態に当てはまらないものについて「ホテル」と呼称することとする。

図表2 旧旅館業法における、ホテル・旅館等の区別

項目	ホテル	旅館	民宿やペンション旅館
和式 or 洋式	主に洋式	主に和式	問わない
客室数	10室以上	5室以上	問わない
客室の広さ	1部屋あたり9㎡以上	1部屋あたり7㎡以上	全客室合計で33㎡以上
入浴設備等	適当な数の洋式浴室またはシャワー室	適当な規模の入浴設備	適当な規模の洗面設備
トイレ	水洗かつ洋式のものがある	適当な数がある	適当な数がある
施錠	出入口および窓は施錠できること	問わない	問わない
その他	客室同士や客室と廊下は壁で区切られていること	問わない	問わない

※民宿やペンション旅館、民泊施設については、「簡易宿所営業」という扱い

(2) ホテルが備える機能や設備

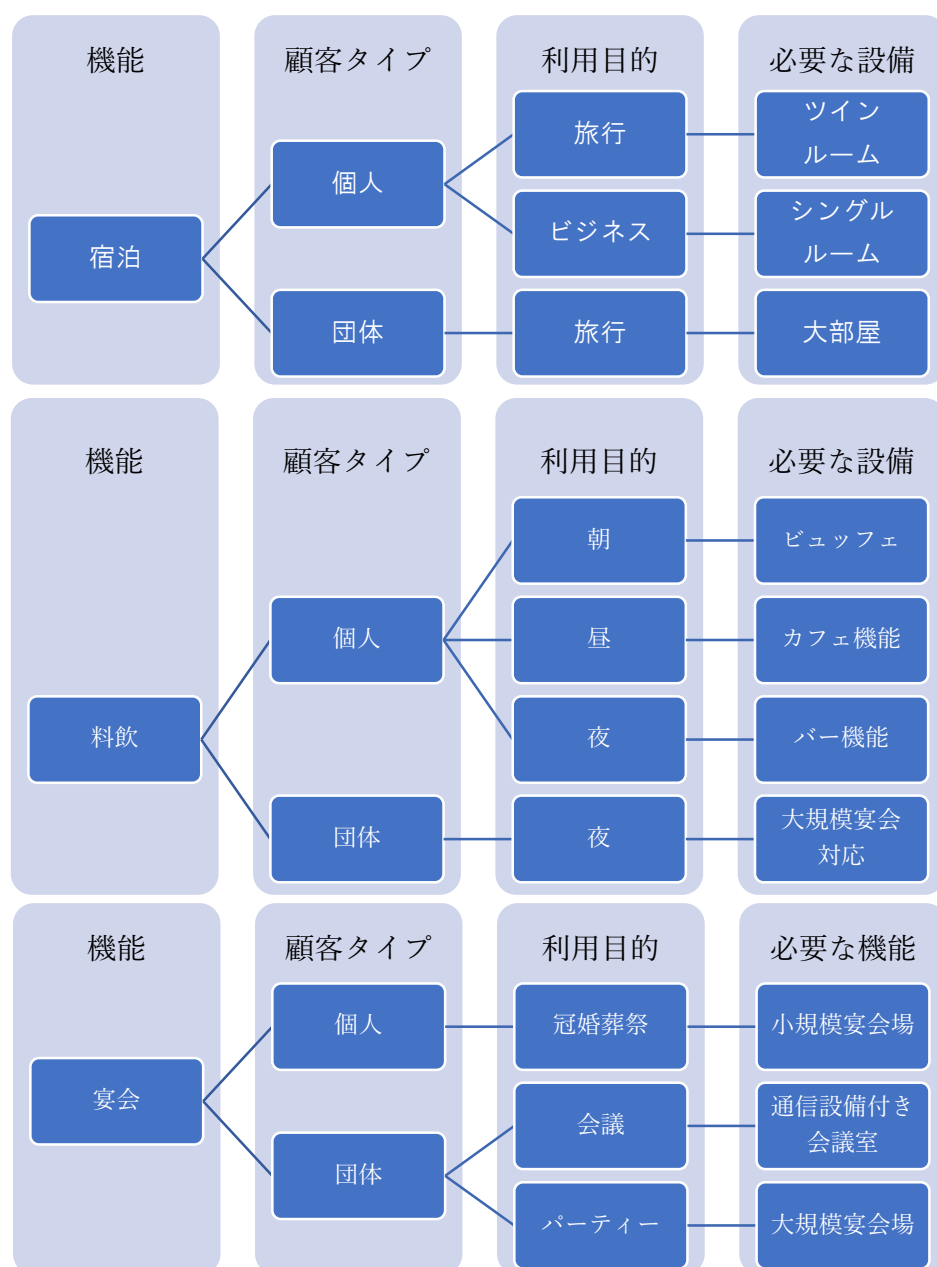
①ホテルが備える機能と必要な設備についての基本的な考え方

ホテルには、宿泊機能を中核として、宿泊に伴い必要となる飲食を提供する「料飲機能」、会議や冠婚葬祭の場を提供する「宴会機能」、運動や入浴などの娯楽を提供する「レジャー機能」等、利用者の目的に応じて宿泊以外の様々な機能を備えたものが存在している。

こうした諸機能やホテルのグレードについては、想定する対象顧客がどのようなものかによって、求められるものが変化することとなる。

主な機能の想定顧客と求められる機能・グレードの例について図示すると、以下のようになる。

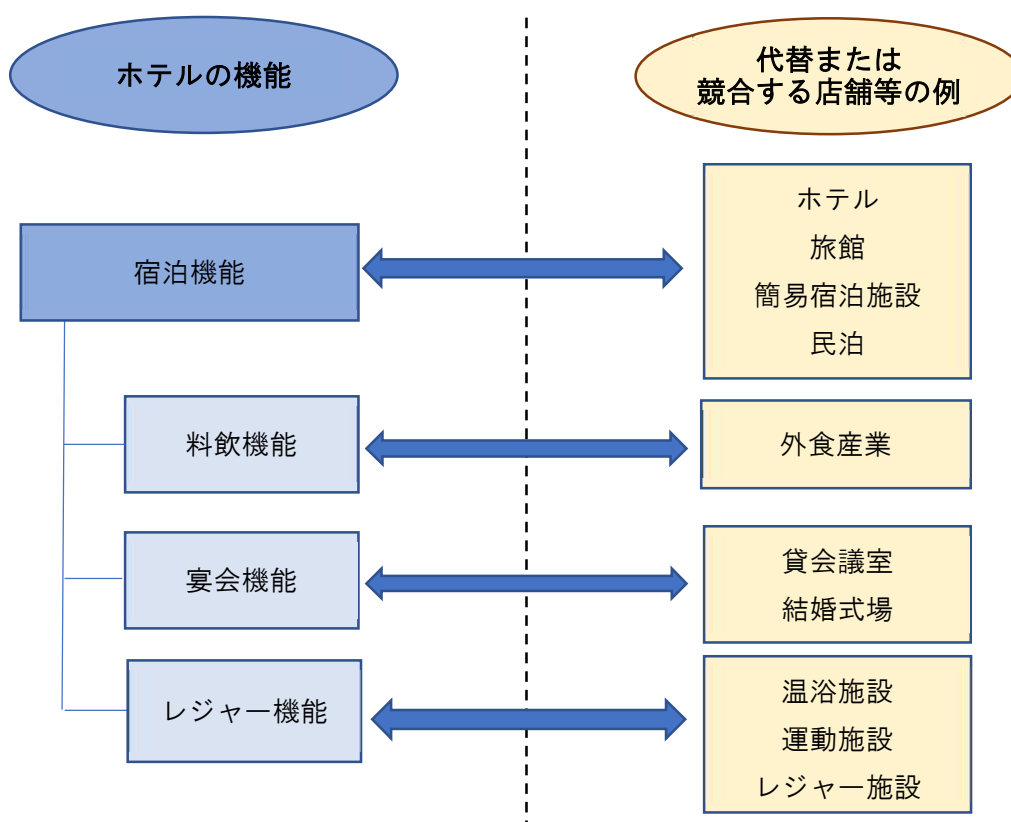
図表 3 ホテルの機能と必要な設備についての考え方の例



ホテルの利用者が求める機能やサービスについては、すべてをホテル内に備える必要はなく、外部の店舗や施設を活用して補完することも可能である。例えばビジネスホテルチェーンには、宿泊と朝食のみを自身のサービスとして提供し、夕食については利用者がホテル外の店舗等を利用することを前提とした事業形態も見られる。

また、ホテルに料飲機能等を備える場合、近隣に所在する、個別の機能に特化した業種と競合することもある。ホテルの機能の検討にあたっては、顧客像（求めるサービスの種類や品質等）の想定と同時に、そうした機能をホテル自身が備える必要があるか、また周辺地域に競合となる店舗や施設がどの程度集積しているかも含め、事業形態を検討することが求められる。

図表 4 ホテルの機能と競合産業の例



②ホテルの機能と収益構造

ホテルが備える諸機能は、それぞれ異なる収益構造を持っている。

例えば宿泊機能は、他の機能と比べて必要な人員が少ないことから、利益率が最も高い。それに対して宴会機能は、宿泊機能と比較すると稼働率が低く、応対する人員の確保が必要であるため、宿泊機能と比べると利益率は下がることが一般的である。また、料飲機能は精確な売り上げを事前に予想することは難しく、仕入れ・廃棄のコストがかかることや、調理・給仕等人員を常に待機させておく必要があり、経費がかさむことから、他の機能と比べると収入が不安定であり、結果的に利益率が低くなりがちである。

ホテルに備える機能を充実させることで、多様な利用目的を顧客として見込むことが可能

になる一方、それに対応するだけのコストが増大し、事業全体としての利益率が下がり、事業の成立が難しくなる可能性がある。

また、逆にホテルの機能を宿泊機能に特化させると、低コストを実現し高い利益率を見込むことが可能になるが、対応できる客層や利用目的の幅は狭まることとなる。

（３）ホテルの分類と呼称

ホテルの分類は、付帯している機能による分類、価格帯による分類、立地条件による分類など、利用目的に応じて様々な視点からの分類がなされている。

本調査においては、ホテルの分類について、観光庁「宿泊旅行統計調査」に用いられ、一般的に認知されている分類であると考えられることから、「シティホテル」・「ビジネスホテル」・「リゾートホテル」の３つの分類を用いることとする。

なお、本調査におけるこれら３分類の定義は以下の通りである。

- シティホテル　：主に都市部に立地し、飲食・会議場など宿泊以外の機能を備えるもの。
- ビジネスホテル：宿泊の機能に特化し、料飲機能は朝食を提供する程度の簡易な機能にとどまっているもの。
- リゾートホテル：著名な観光地に立地していたり、娯楽施設を充実させていたりするなど、ホテルへの宿泊自体が目的となるような付加価値を付与されているもの。

（４）ホテルの立地として求められる条件

ここでは、ホテルの立地として求められる条件について、法制度上の規定及びホテル事業者等が立地可能性を検討する際の視点から整理する。

①法制度上の規定

わが国では、都市計画法の定めにより、用途地域ごとに立地可能な施設等が規定されている。同法に基づく、用途地域区分別のホテルの立地可否については図表５の通りである。

図表５ ホテル・旅館が立地可能な用途地域区分

用途地域区分		ホテル の立地可否	備考
住居系地域	第１種低層住居専用地域	×	
	第２種低層住居専用地域	×	
	第１種中高層住居専用地域	×	
	第２種中高層住居専用地域	×	
	第１種住居地域	△	延床面積 3,000 ㎡以下
	第２種住居地域	○	
	準住居地域	○	
	田園住居地域	×	
商業系地域	近隣商業地域	○	
	商業地域	○	
工業系地域	準工業地域	○	
	工業地域	×	
	工業専用地域	×	
市街化調整区域		△	原則として認められないが、名所旧跡の近くなど、観光産業の振興等の理由から適当と認められた場合には、立地可能となることがある

②ホテル事業者等が立地可能性を検討する際の視点

ホテル事業者等が立地可能性（現地で事業が成立するか否か）を検討する際には、様々な視点から現地及び周辺の事業環境を評価し、進出の可否についての判断が行われる。ここではそうした視pointsの例として、「交通」・「人口」・「来訪目的」の３つを取り上げる。

必ずしもこれらがホテル事業者の進出可否を決定するすべての要素ではないが、これらの視点から不適であると判断された場合には、他の要素をもって補うことが難しいのではないかと考えられる。

ア) 交通の視点

ホテルの立地として、一般的には交通利便性の高い場所が選好される。なお、主な顧客層が利用する交通手段をどのように想定するかの違いによって、どのような立地が好適とされるかには違いが生じる。例えば以下のような具合である。

【ホテルの立地と想定される顧客の例】

- ・ 鉄道駅周辺：ビジネスマン、観光客、高齢者など幅広い層
- ・ 高速道路の IC、幹線道路周辺：マイカー旅行者、社用車移動のビジネスマン等
- ・ 空港周辺：トランジットの外国人観光客等

なお、基本的には鉄道駅や高速道路等からのアクセスが良好であることが選好されるが、長期間の滞在を目的とするリゾートホテルの場合には、ホテルの周辺環境（景観や静かさ、充実した設備を持てる土地の広さ、観光名所に近いこと等）が優先され、交通機関へのアクセスがあまりよくない場所であっても選好される場合がある。

イ) 人口の視点

ホテル事業が成立するためには、必要経費に対し十分な売上が見込めることが必要であり、こうした視点からはホテルの周辺地域の人口規模が重要な指標となるが、夜間人口（常住人口）はあまり宿泊に結びつかないため、宿泊機能については昼間人口が多い地域が選好される。

料飲・宴会機能については、宿泊者だけでなく近隣住民や近隣法人にも利用されることが収益性を高められるため、周辺の夜間人口・昼間人口の双方が十分な規模である立地が選好される。

つまり、ホテルの立地としては一定規模の人口が常住し、かつ外部から多くの来訪者を誘引できる場所であることが好ましいと言える。例えば、駅前に立地するホテルを想定する場合、来訪者数の指標としては周辺人口に加えて最寄り駅の乗降客数が重要な判断材料となる。

ウ) 来訪目的の視点

ホテルの利用客として、大別して観光客とビジネス客が考えられるが、前者を主な顧客として想定する場合は目的地となる観光地の有無、後者の場合はビジネス客の来訪先である企業や工場等がどの程度立地しているかが重要な指標となる。

宿泊機能、料飲機能については来訪者が多いほど潜在的な顧客に対する期待値が高まり、また宴会機能にとっては、オフィスや工場等が集積している地域の場合、大規模な会議や研修、宴会等大口の需要の発生を見込むことができる。

（５）近年のホテル産業の動向

ここでは、国の統計資料等に基づき、わが国や神奈川県におけるホテル産業の動向について概観する。

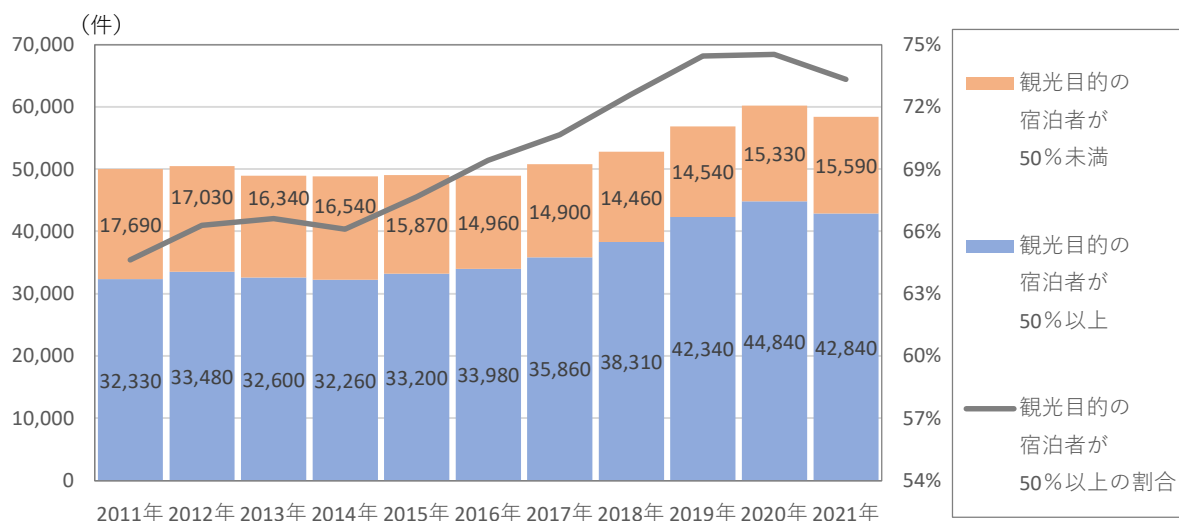
①ホテル件数の推移

観光庁の「宿泊旅行統計調査」によれば、全国の宿泊施設数（旅館、簡易宿所も含む）は2016年以降増加が続き、2020年には約60,000件となっている。神奈川県内においても、2018年以降宿泊施設数が継続的に増加している。

新型コロナウイルス感染症の流行による影響を受け、全国では2020年から宿泊施設数が減少した。一方、神奈川県においては、2021年も宿泊施設数は微増となった。

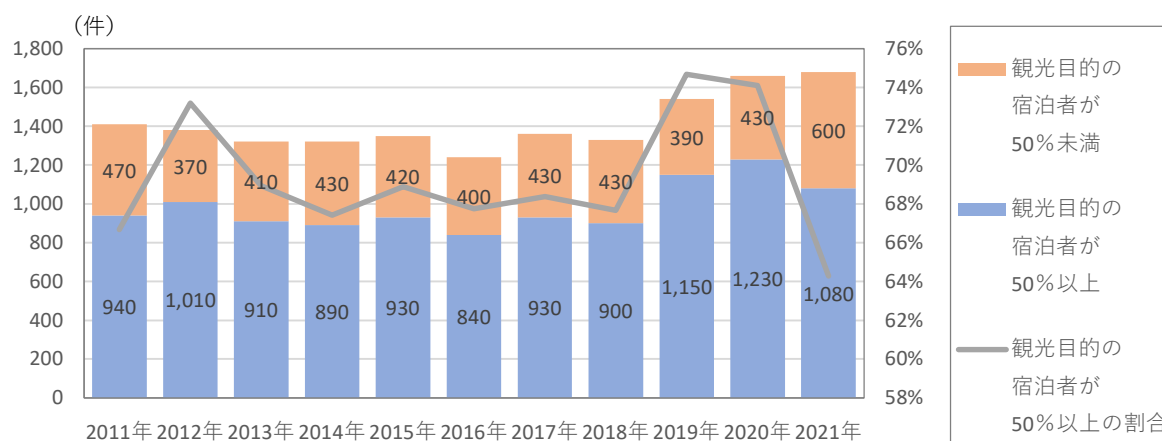
全国では、2014年以降、2020年まで「観光目的の宿泊者が50%以上」の宿泊施設が増加傾向にあった。2021年に減少に転じたのは、新型コロナウイルス感染症の流行に伴って観光需要が少なくなったためと考えられる。神奈川県では年による変動が大きいものの、2021年は「観光目的の宿泊者が50%以上」の宿泊施設は大きく減少している。

図表 6 宿泊施設の件数の推移（全国）



出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」

図表 7 宿泊施設の件数の推移（神奈川県）

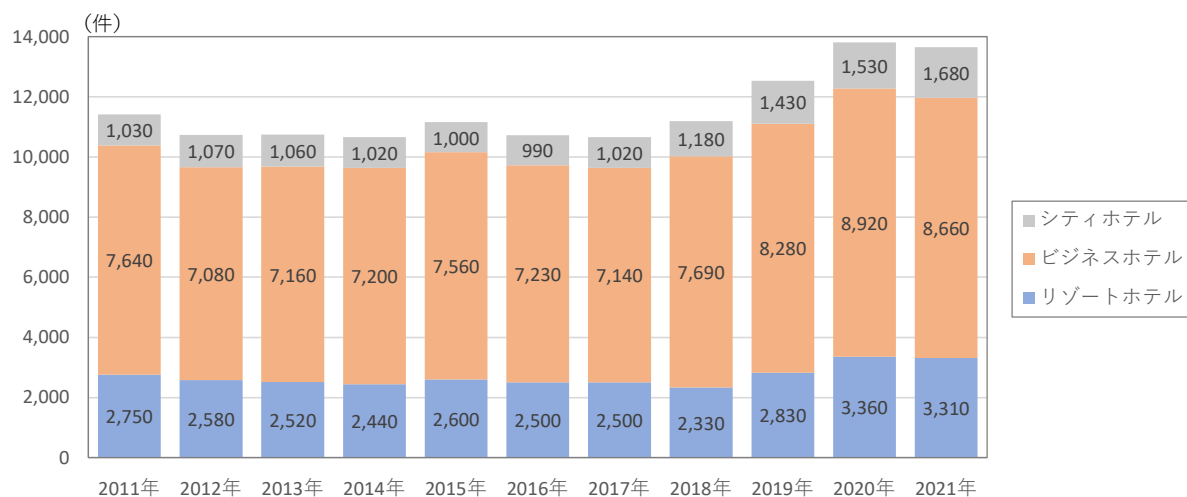


出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」

全国のホテル数は、シティ・ビジネス・リゾートの各業態において、インバウンド観光客の増加を背景として 2016 年ごろから増加傾向にあった。新型コロナウイルス感染症の流行により、2021 年はホテル件数の総計は減少となった。神奈川県においても、全国におけるホテルの増減の傾向と同様の傾向が見られる。なお、「宿泊旅行統計調査」では調査対象となった事業者の自己申告に基づいてホテルの分類がなされるため、本調査におけるホテル分類とは定義が一致しない場合があると考えられるが、他に利用可能な情報が得られなかったことから、ここでは便宜上、両者は概ね同様のものと想定する。

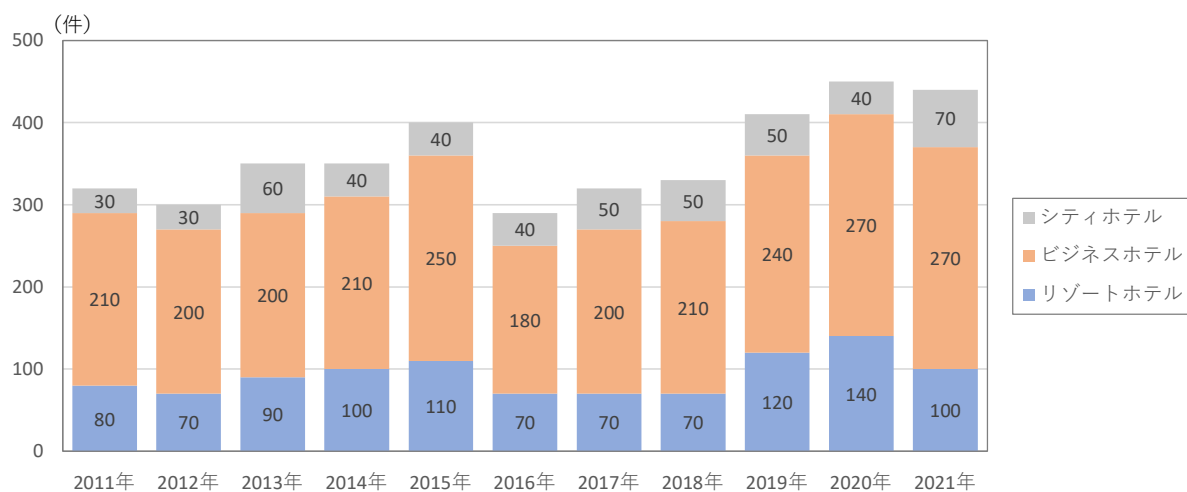
2016 年から 2021 年のホテルの分類別の増加率を見ると、シティホテルで最も増加率が高く、全国・神奈川県ともにコロナ禍であっても増加している。また、神奈川県においては、ビジネスホテルも 2020 年の件数を維持している。

図表 8 ホテル（3 区分）の件数の推移（全国）



出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」

図表 9 ホテル（3 区分）の件数の推移（神奈川県）



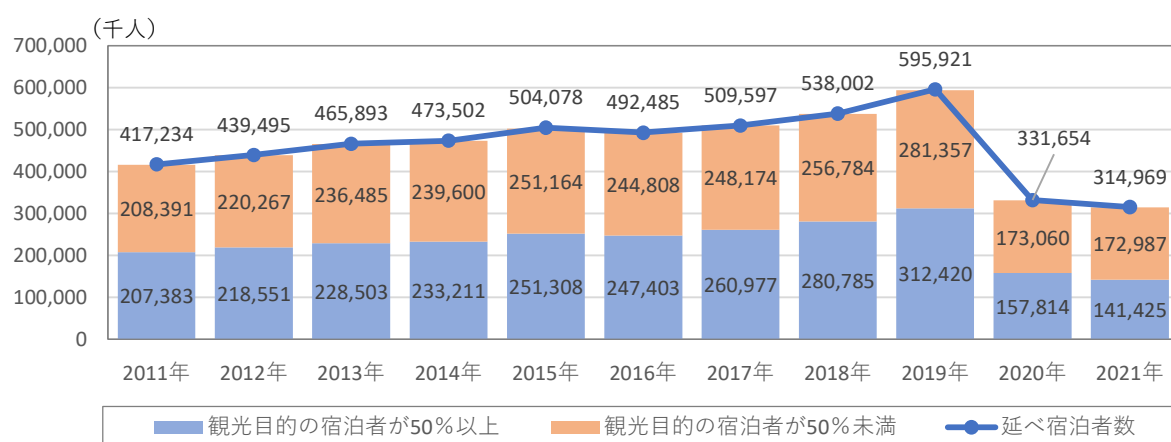
出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」

②宿泊者数の推移

旅館・ホテル等の宿泊者数については、全国では2016年から2019年まで増加が続き、特に2018年から2019年にかけての増加が大きかったが、2020年以降、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う緊急事態宣言発令等により、宿泊者数が大きく減少した。神奈川県で同様の傾向が見られる。

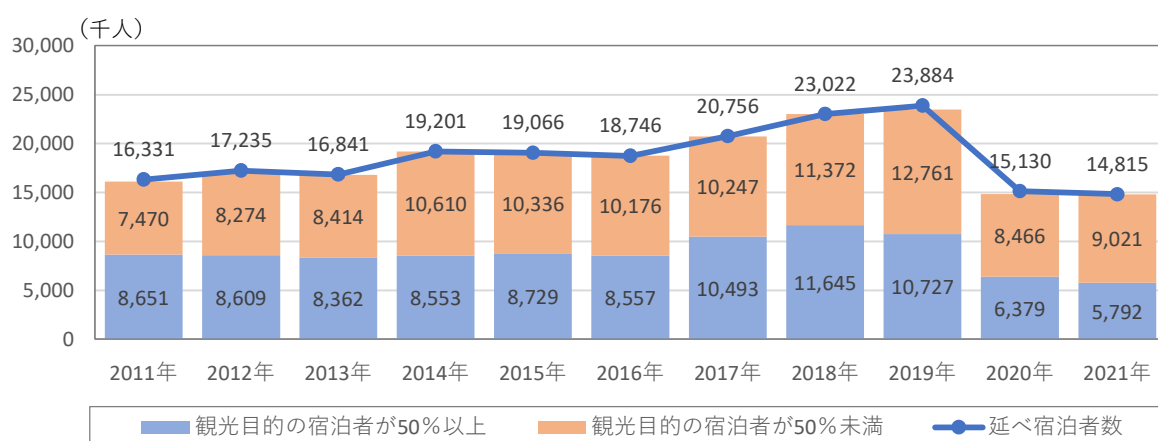
「観光目的の宿泊者が50%未満」の宿泊施設においては、「観光目的の宿泊者が50%以上」と比較して宿泊者数の減少割合が小さい。ビジネスホテルがこの分類に該当すると考えられ、観光需要と比較するとビジネス需要は危機時においても一定程度発生すると考えられる。

図表 10 旅館・ホテルの宿泊者数の推移（全国）



出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」

図表 11 旅館・ホテルの宿泊者数の推移（神奈川県）

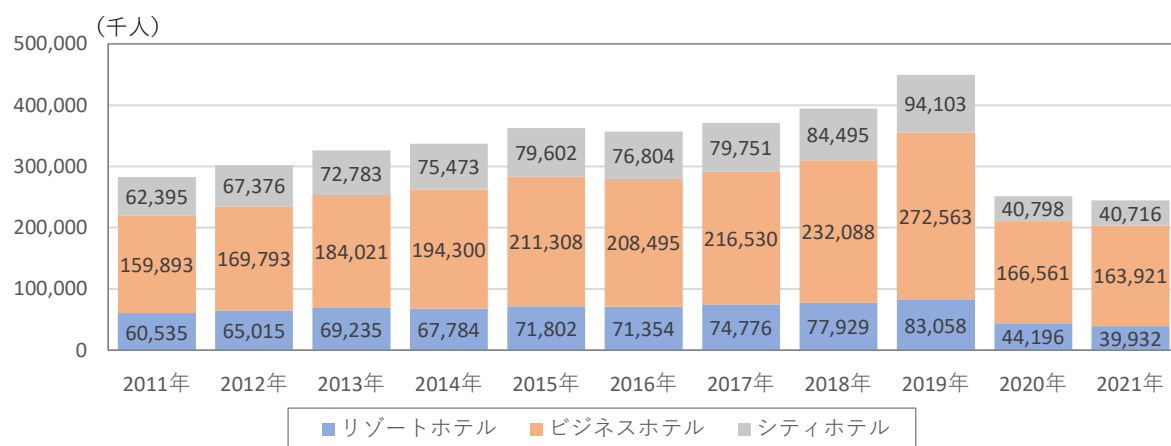


出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」

ホテルの分類別の宿泊者数は、2020 年まで拡大を続けており、特に「ビジネスホテル」の宿泊者数の増加が大きい。2020 年においては新型コロナウイルス感染症の影響により、前年と比べ大きな減少が見られたが、シティホテル・リゾートホテルが 2011 年時点の宿泊者数を下回ったのに対し、ビジネスホテルは 2011 年時点の宿泊者数を上回る宿泊者数を維持している。

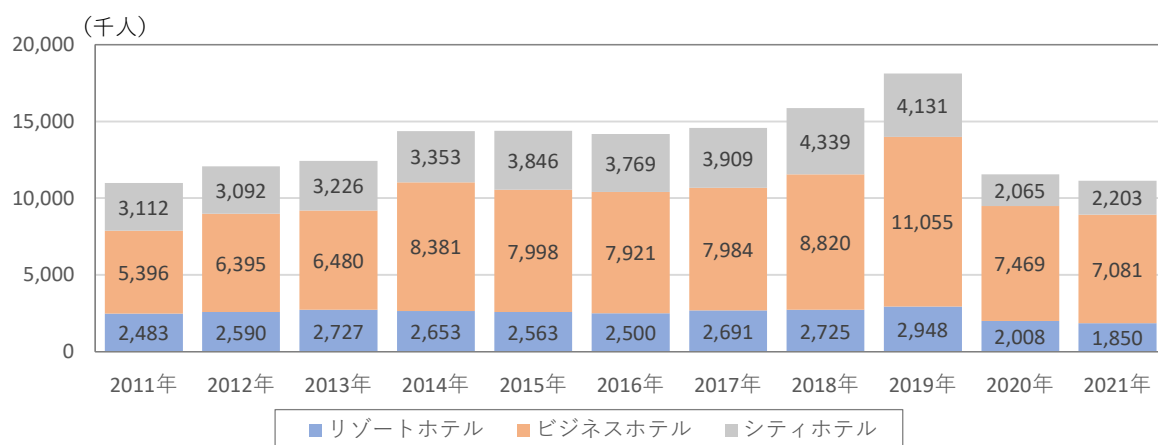
神奈川県においても、全国と同様に拡大傾向にあり、ビジネスホテルの宿泊者数の増加が大きく寄与していた。2020 年以降大幅に宿泊者数は減少しているが、3 業態ともに全国と比較すると減少割合は小さい。

図表 12 ホテル（3 区分）の宿泊者数の推移（全国）



出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」

図表 13 ホテル（3 区分）の宿泊者数の推移（神奈川県）



出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」

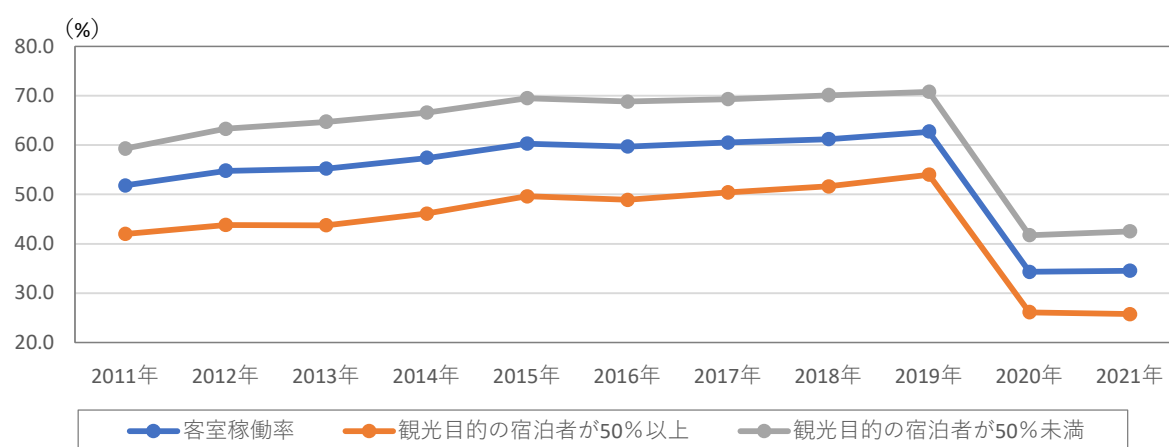
③客室稼働率の推移

客室稼働率は2019年まで緩やかに上昇傾向にあったが、2020年以降は宿泊者数の減少に伴って全国・神奈川県ともに低迷している。なお、両者を比較すると、神奈川県の方が全国よりも客室稼働率が高い傾向にある。

また、「観光目的の宿泊者が50%以上」の施設では、「観光目的の宿泊者が50%未満」の施設と比較して客室稼働率が低い傾向にある。

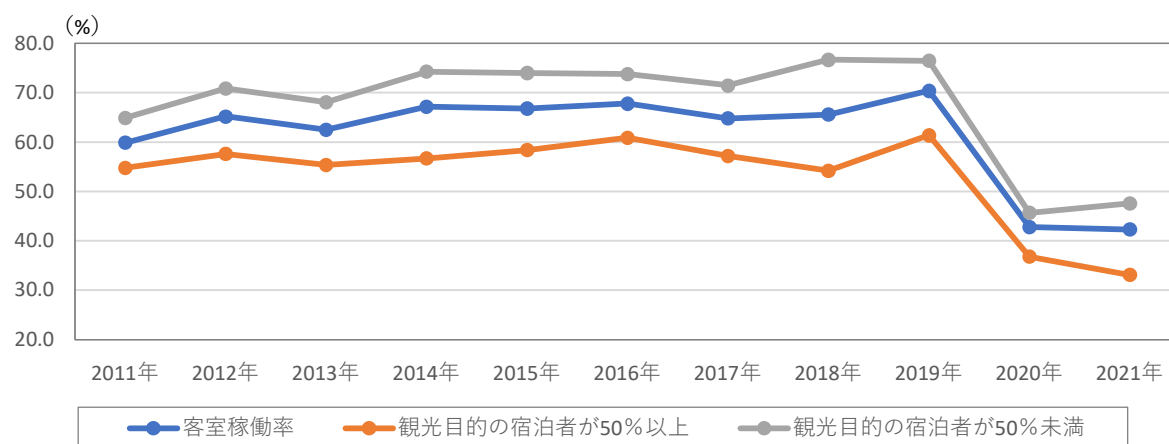
2021年において、「観光目的の宿泊者が50%未満」の施設では客室稼働率に若干の改善が見られるが、「観光目的の宿泊者が50%以上」の施設では前年よりも客室稼働率が低迷している。

図表 14 宿泊施設の客室稼働率の推移（全国）



出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」

図表 15 宿泊施設の客室稼働率の推移（神奈川県）

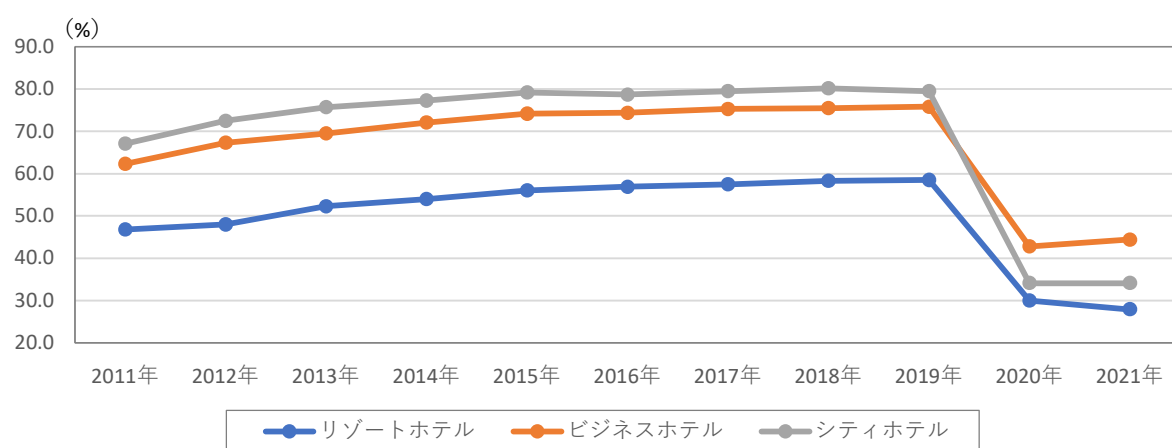


出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」

ホテルの分類別の客室稼働率は、新型コロナウイルス感染症の流行以前はシティホテルが最も稼働率が高く、続いてビジネスホテル、リゾートホテルという順番であったが、2020年以降ビジネスホテルが最も稼働率の高い業態となっている。

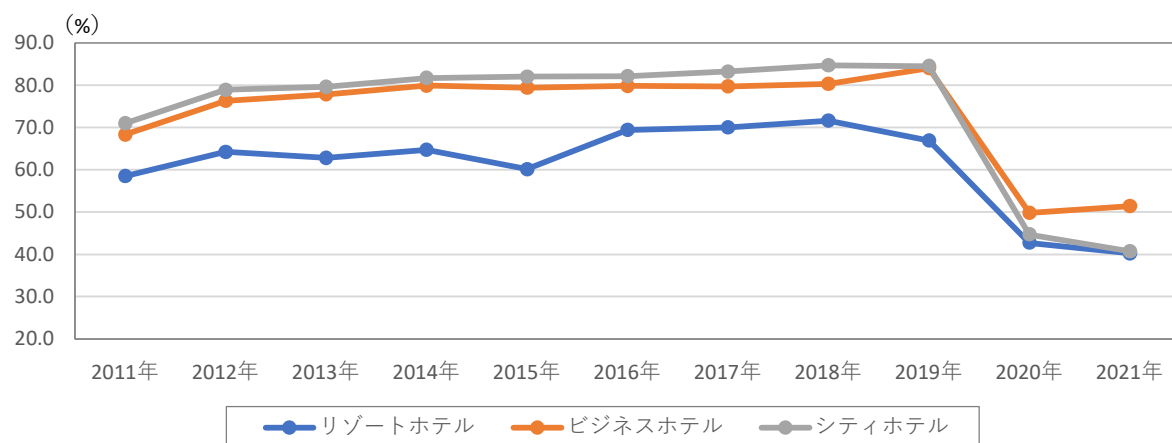
ビジネスホテルの客室稼働率については、全国・神奈川県ともに2021年において改善が見られる。

図表 16 ホテル（3区分）の客室稼働率の推移（全国）



出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」

図表 17 ホテル（3区分）の客室稼働率の推移（神奈川県）



出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」

3. 寒川町の立地及び周辺事業環境の整理

本章では、統計資料等に基づき寒川町及び周辺地域の事業環境について整理する。

(1) 立地及び陸上交通の環境

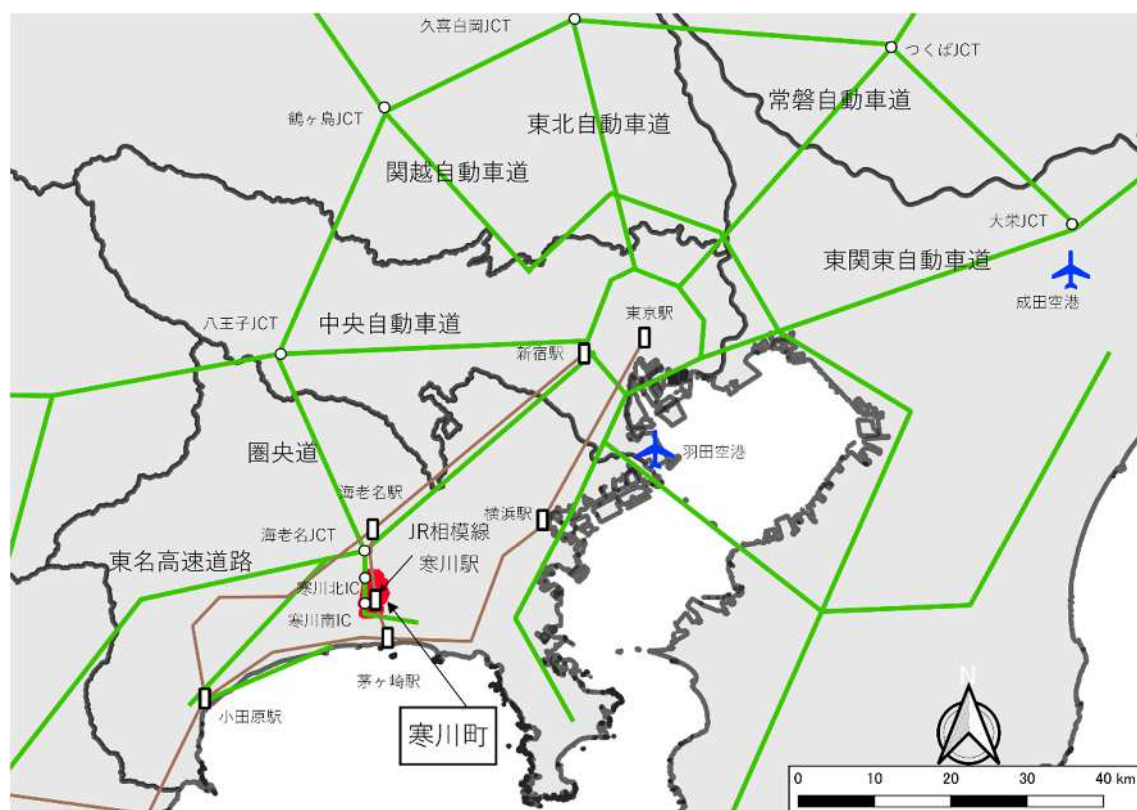
寒川町は、東西方向で見れば神奈川県のはぼ中央、相模川の東側に立地し、海老名市・藤沢市・茅ヶ崎市・平塚市・厚木市に隣接している。

JR 相模線が町内を縦断するように走っており、寒川駅・宮山駅・倉見駅の3駅が所在し、同線により南は茅ヶ崎駅、北は海老名駅、さらには橋本駅等につながっている。

寒川町移住定住ポータルサイトの記載によれば、鉄道での東京駅からの所要時間は約80分、横浜駅からは約50分であり、寒川町は大都市への通勤圏に含まれる地域である。

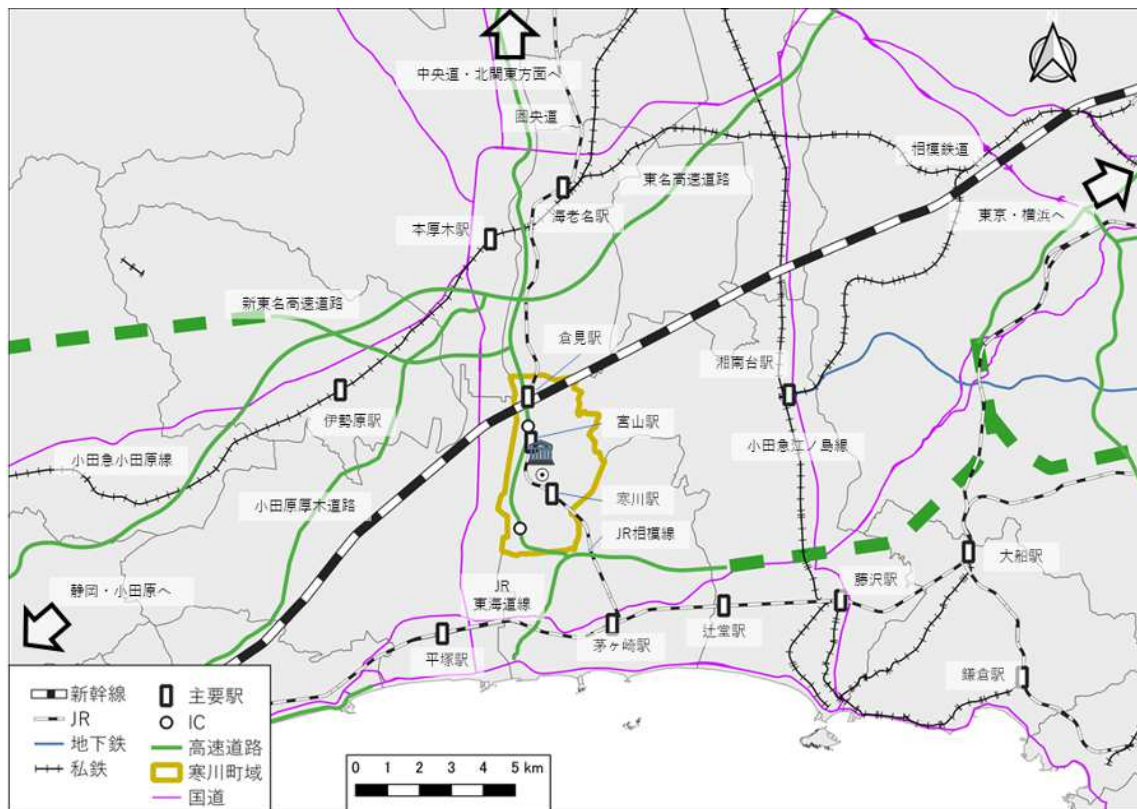
また、圏央道が町内を縦断しており、寒川北IC・寒川南ICの2つのICが所在するなど、高速道路を通じて関東各地へのアクセスが良好な立地となっている。

図表 18 寒川町周辺広域図



出所：浜銀総研作成

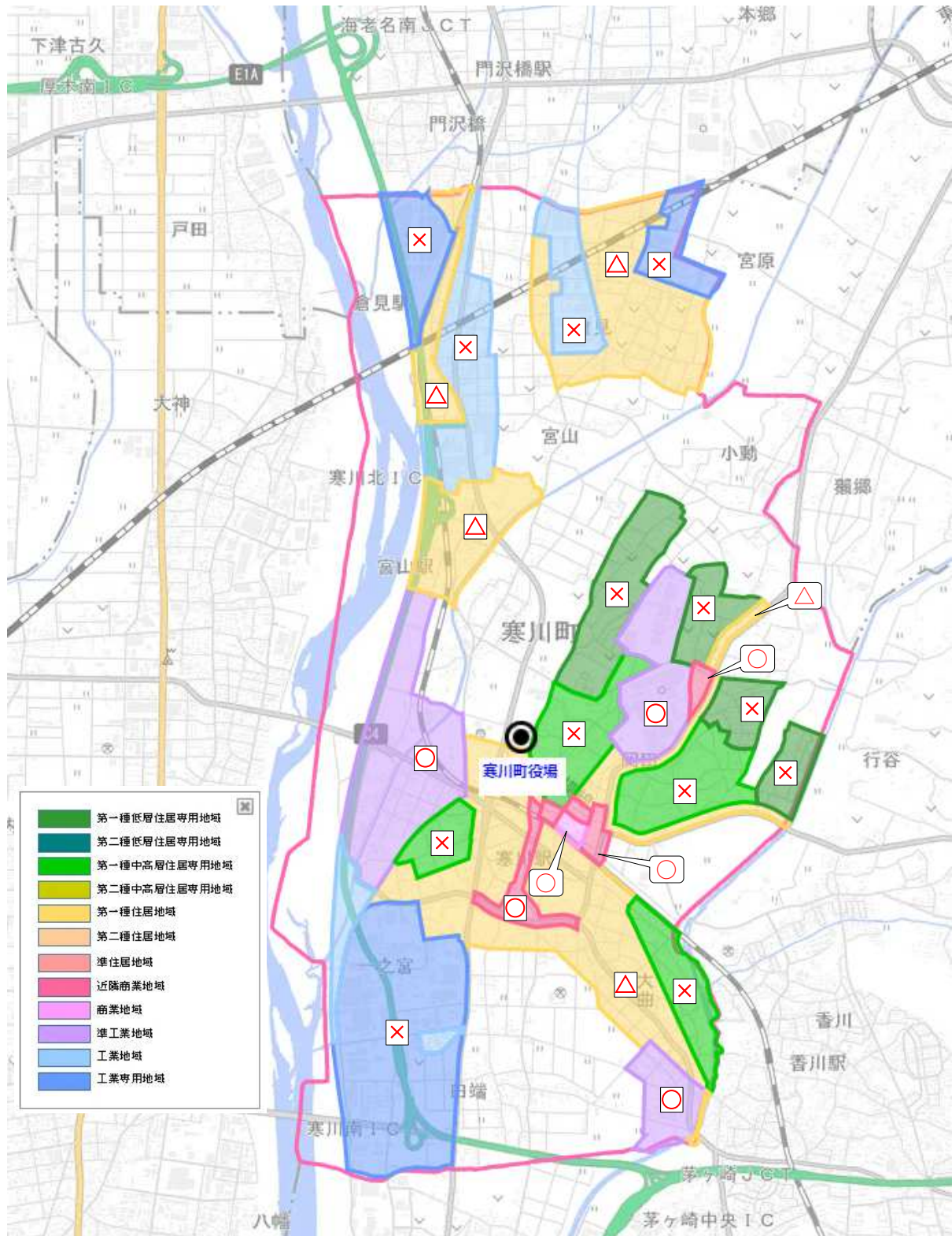
図表 19 寒川町周辺詳細図



出所：浜銀総研作成

寒川町の用途地域区分は図表 20 のようになっている。現状の用途地域区分では町内でホテルの立地が可能な場所は限られており、寒川駅前エリアのほか、相模川沿い（町の西側）などがホテル新設の候補地として考えられる。

図表 20 寒川町の用途地域区分の概観



出所： <https://cityzone.mapexpert.net/ZoneMap?L=14321&N=%E9%AB%98%E5%BA%A7%E9%83%A1%E5%AF%92%E5%B7%9D%E7%94%BA>
 ※地図上の記号は、[○：ホテル立地可能、△：ホテル立地可能（延床面積 3,000 ㎡以下）、×：ホテル立地不可]を指す

(2) 寒川町の人口

①人口の現状と将来推計

国勢調査に基づく寒川町の人口（2020年）は48,348人であり、2015年の国勢調査結果に基づく国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計によれば、今後は人口減少が進むことが予想されている。

現状、寒川町単体での人口は5万人程度であるが、隣接する自治体を併せた一つの「圏域」として見た場合の人口は130万人程度となり、川崎市に匹敵する規模となる。

図表 21 寒川町及び隣接自治体の人口（2015・2020年実績値及び将来推計）

単位：人

	寒川町	海老名市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	厚木市	圏域合計
2015年	47,936	130,190	423,894	239,348	258,227	225,714	1,325,309
2020年	48,348	136,516	436,905	242,389	258,422	223,705	1,346,285
2025年	46,648	131,091	436,060	241,060	247,610	221,546	1,324,015
2030年	45,409	129,339	435,829	238,830	239,291	216,050	1,304,748
2035年	43,958	126,673	432,551	235,437	229,642	209,096	1,277,357
2040年	42,467	123,685	427,048	231,490	219,375	201,484	1,245,549
2045年	40,986	120,575	419,956	227,190	208,823	193,759	1,211,289

出所：国勢調査（2015年・2020年）

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計」（2025年以降）

なお、寒川町及び隣接市においては、いずれも今後高齢化が進行していくこととなるが、この圏域では神奈川県平均よりも高齢化の進展がやや早いと予想されている。

図表 22 寒川町及び隣接自治体の高齢化率（2015・2020年実績値及び将来推計）

	寒川町	海老名市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	厚木市	圏域平均	神奈川県
2015年	25.0%	23.3%	23.4%	25.0%	25.9%	22.9%	24.2%	23.9%
2020年	27.6%	25.1%	24.8%	27.0%	28.6%	26.0%	26.5%	25.6%
2025年	29.1%	26.5%	26.0%	27.4%	30.5%	27.0%	27.7%	26.7%
2030年	30.1%	27.7%	27.7%	28.8%	32.4%	28.4%	29.2%	28.3%
2035年	31.5%	29.8%	30.3%	31.1%	35.1%	30.8%	31.4%	30.7%
2040年	34.1%	32.8%	33.3%	34.2%	38.5%	34.0%	34.5%	33.6%
2045年	36.0%	34.5%	35.1%	36.0%	40.6%	35.9%	36.3%	35.2%

出所：国勢調査（2015年・2020年）

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計」（2025年以降）

②昼夜間人口比率

寒川町及びその隣接市では、昼夜間人口比率は100を下回っている自治体が多く、特に茅ヶ崎市では79.2と、他と比べて低い値となっている。一方で厚木市は115.6となっており、周辺から多くの通勤・通学者を集める都市であることがうかがえる。

図表 23 寒川町及び隣接自治体の昼夜間人口比率（2015年実績値）

	寒川町	海老名市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	厚木市	圏域平均
2015年	92.8	94.7	93.2	79.2	99.5	115.6	95.8

出所：国勢調査

(3) 産業の状況

①事業所数・従業者数

経済センサスに基づく 2016 年の寒川町の事業所数は 1,762、従業者数は 21,696 人であり、圏域合計としては 44,600 事業所、従業者数 546,929 人となっている。産業面での寒川町の特徴として、製造業が盛んであり、特に自動車関連の産業が集積していることが挙げられる。寒川町の全事業所数の 13.7% (241 事業所)、全従業者数の 40.3% (8,742 人) を製造業が占めており、産業大分類別従業者数の特化係数も製造業で非常に高くなっている。

寒川町及び隣接自治体には規模の大きな工場や研究所等が立地しており、神奈川県内の産業拠点として重要な地位を占めている地域である。

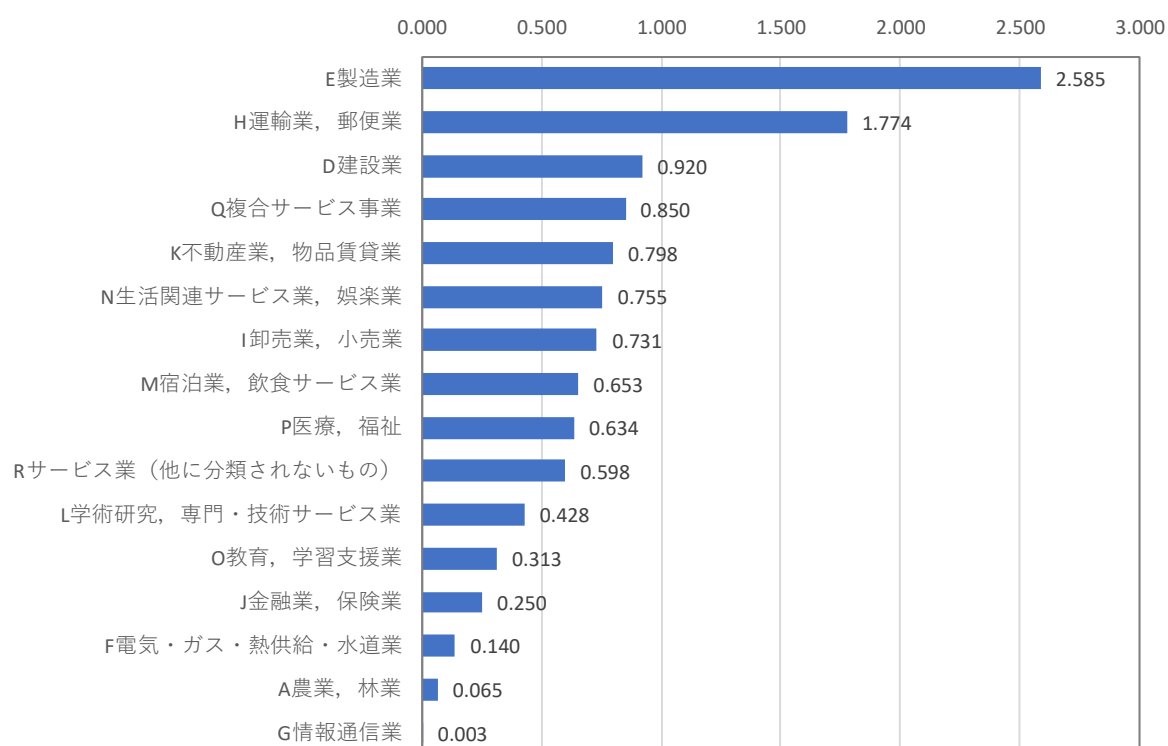
図表 24 寒川町及び隣接自治体の事業所数及び従業者数 (2016 年)

単位：事業所、人

	寒川町	海老名市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	厚木市	圏域合計
事業所数 (2016 年)	1,762	4,398	13,027	6,446	9,365	9,602	44,600
従業者数 (2016 年)	21,696	58,600	158,104	55,805	104,818	147,906	546,929

出所：総務省「経済センサス 活動調査」

図表 25 寒川町の産業大分類別従業者数の特化係数 (2016 年)



出所：総務省「経済センサス 活動調査」に基づき浜銀総合研究所が算出

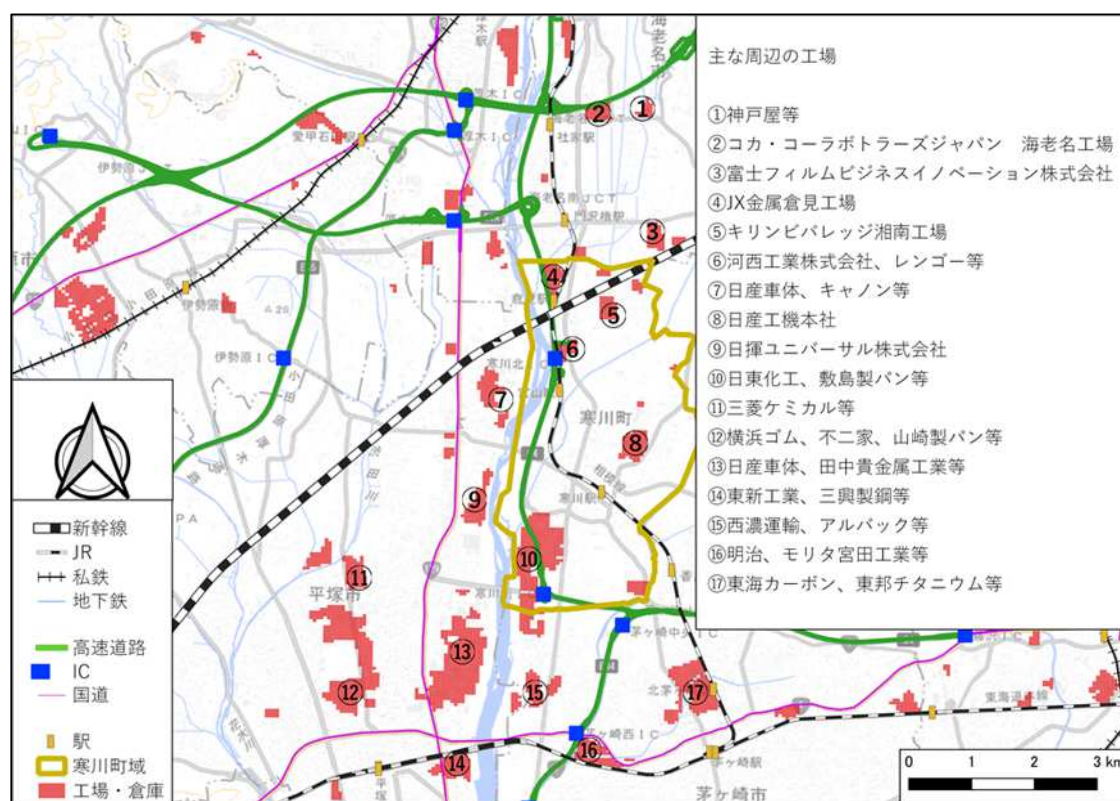
②寒川町内の主要な製造業の企業及び事業所

寒川町内には、自動車関連産業をはじめとして多くの企業や事業所が集積している。代表的なものとしては、以下のような企業・事業所が挙げられる。

図表 26 寒川町内の主要な企業及び事業所

・ 日産工機（本社）	・ 河西工業（本社）
・ JX 金属倉見工場	・ キリンビバレッジ湘南工場
・ 日立物流神奈川営業部	・ 日東化工本社
・ 旭ファイバーグラス湘南工場	・ アズビル湘南工場
・ 新明和工業寒川工場	・ 東京応化工業相模事業所・湘南工場
・ レンゴー湘南工場	・ 敷島製パンパスコ湘南工場

図表 27 寒川町及び周辺地域の主要な事業所の立地



③観光の状況

寒川町及び隣接自治体の入込観光客数は以下の通りである。なお、寒川町の入込観光客数調査は寒川神社のみを対象として行われており、この数値は寒川神社への来訪者数と同義である。コロナ禍の様々な行動制限の影響を受けた 2020 年までは、圏域合計の入込観光客数は年間 3,400 万人程度で推移していた。

寒川町の観光の特徴として、入込観光客数が 1 月に集中していることが挙げられる。これは寒川神社の年間の参拝者数のうち、初詣客が大半を占めていることに起因している。

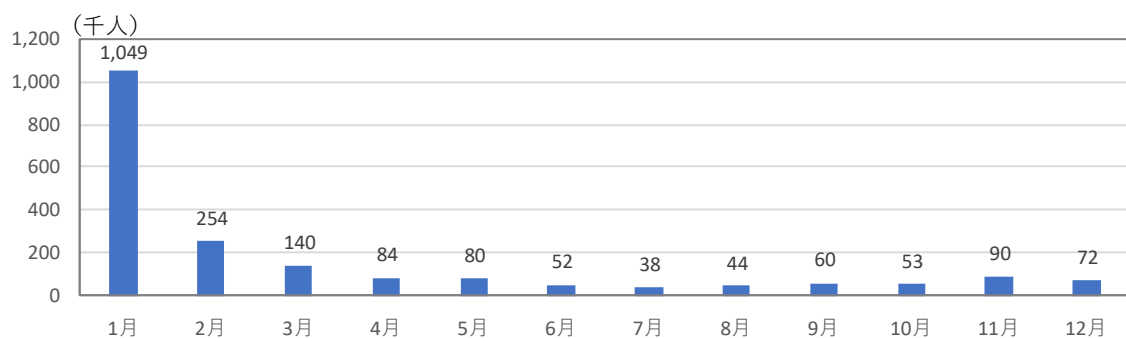
図表 28 寒川町及び隣接自治体の入込観光客数（2016～2020 年）

単位：千人

	寒川町	海老名市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	厚木市	圏域合計
2016 年	1,955	247	18,648	2,861	7,296	3,374	34,381
2017 年	1,951	252	16,480	3,028	7,655	3,262	32,628
2018 年	1,975	282	18,392	2,954	7,549	3,155	34,307
2019 年	2,014	227	19,300	2,574	7,343	2,942	34,400
2020 年	1,898	31	11,558	1,815	3,752	1,284	20,338

出所：神奈川県「入込観光客調査」

図表 29 寒川町の入込観光客数（2019 年、月別）



出所：神奈川県「入込観光客調査」

④ホテル事業の観点から見た寒川町周辺の事業環境

寒川町の事業環境について、ホテル事業を成立させるための資源や今後の発展可能性等を以下のように整理した。

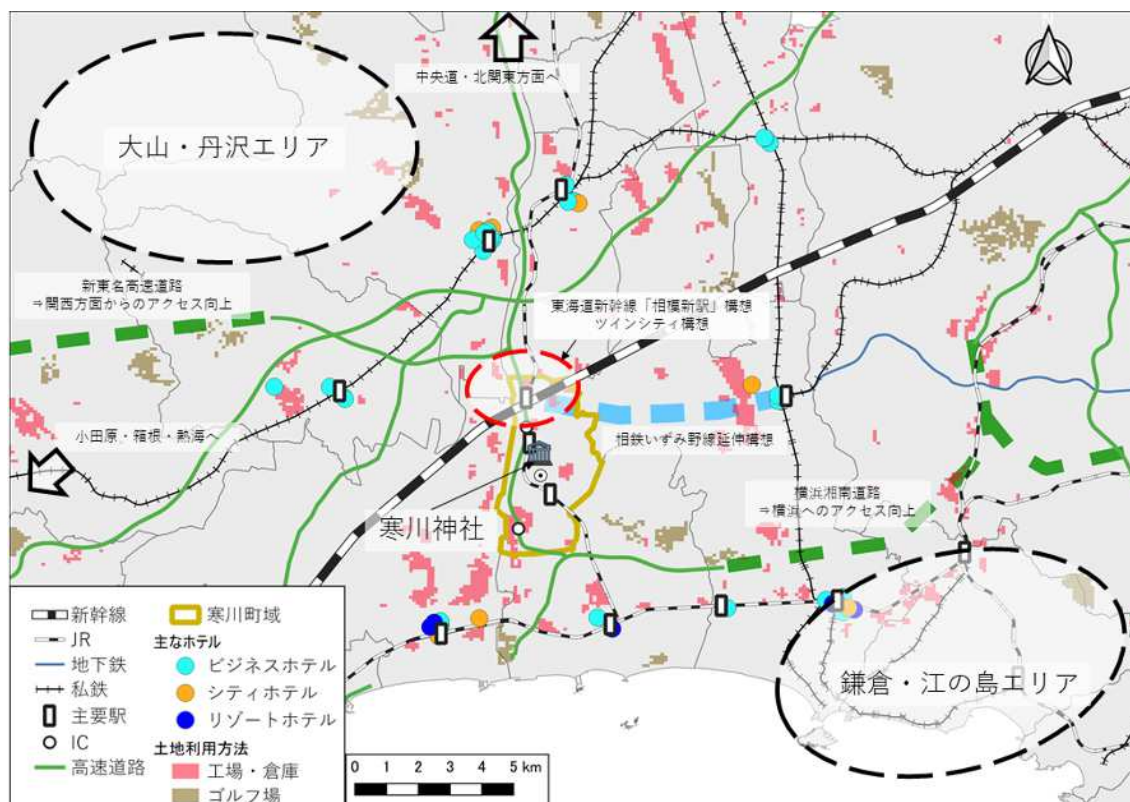
【ホテル利用客を呼び込むための資源】

- ・寒川町内には、全国的な知名度を有し、多数の参拝者を集める寒川神社が立地
- ・県内有数の観光地である大山・丹沢エリア、鎌倉・江の島エリアへの交通アクセスが良好
- ・周辺には工場、ゴルフ場等、ホテルの需要を呼び込むと考えられる施設が多数立地

【将来の発展可能性】

- ・新東名高速道路の全線開通、横浜湘南道路の全線開通により、関西方面、都心・横浜市内方面からの車でのアクセスが格段に向上する
- ・リニア中央新幹線開業、東海道新幹線の「相模新駅」構想が倉見駅周辺に計画されており、寒川町及び周辺地域の交通上の位置付けが変化する可能性がある
- ・平塚駅、茅ヶ崎駅には、今後数年で新規ホテル開業が複数予定されており、現時点においてまだポテンシャルの残されている圏域であることがうかがえる

図表 30 寒川町周辺の事業環境の外観



出所：国土数値情報などを基に浜銀総研作成

図表 31 寒川町周辺に立地するホテル

名称	最寄り駅/IC	客室数	タイプ	レストラン	宴会場	シングル ルーム比率
レンブラントホテル厚木	本厚木	164	シティ	有	有	73.2%
厚木アーバンホテル	本厚木	148	シティ	有	有	76.4%
湘南鎌倉クリスタルホテル	藤沢	30	シティ	有	有	10.0%
グランドホテル神奈中・平塚	平塚	164	シティ	有	有	68.9%
ホテルサンライフガーデン	平塚	50	シティ	有	有	42.0%
P L A Z A a n n e x	湘南台	38	シティ	有	有	0%
レンブラントホテル海老名	海老名	74	シティ	有	有	0%
大和第一ホテル	大和	82	ビジネス	朝のみ		93%
東横 I N N 大和駅前	大和	168	ビジネス	朝のみ		75.0%
アークホテル大和	大和	21	ビジネス			57.1%
ホテル東海	本厚木	75	ビジネス	朝のみ		21.3%
アーベントホテル厚木	本厚木	121	ビジネス	朝のみ		100%
厚木シティホテル	本厚木	54	ビジネス	朝のみ		55.6%
スマイルホテル厚木	本厚木	172	ビジネス	有		89.5%
小田急ステーションホテル本厚木	本厚木	61	ビジネス	朝のみ		72.1%
東横 I N N 本厚木駅南口	本厚木	214	ビジネス	朝のみ		77.6%
スマイルホテル湘南藤沢	藤沢	147	ビジネス	朝のみ		0%
天然温泉 伝馬の湯 スーパーホテル湘南・藤沢駅南口	藤沢	105	ビジネス	朝のみ		61.0%
相鉄フレッサイн藤沢駅南口	藤沢	142	ビジネス	朝のみ		-
アルモントイン湘南藤沢	藤沢	96	ビジネス	朝のみ		99.0%
ホテル法華クラブ湘南藤沢	藤沢	160	ビジネス	朝のみ		53.1%
ホテルウィングインターナショナル湘南藤沢	藤沢	80	ビジネス	朝のみ		67.5%
東横 I N N 湘南鎌倉藤沢駅北口	藤沢	169	ビジネス	朝のみ		82.0%
ホテルリブマックスBUDGET平塚駅前	平塚	146	ビジネス	朝のみ		93.2%
東横 I N N 湘南平塚駅北口 1	平塚	347	ビジネス	朝のみ		65.1%
第一イン湘南	辻堂	108	ビジネス	朝のみ		58.3%
東横 I N N 湘南茅ヶ崎駅北口	茅ヶ崎	156	ビジネス	朝のみ		84.6%
湘南台第一ホテル藤沢横浜	湘南台	116	ビジネス	朝のみ		94.8%
相鉄フレッサイн藤沢湘南台	湘南台	150	ビジネス	朝のみ		84.0%
東横 I N N 海老名駅東口	海老名	214	ビジネス	朝のみ		72.0%
ホテルルートイン海老名駅前	海老名	203	ビジネス	朝のみ		76.4%
ホテルルートイン伊勢原大山インター - 国道 2 4 6 号 -	伊勢原大山IC	218	ビジネス	朝のみ		82.6%
アパホテル<伊勢原駅前>	伊勢原	107	ビジネス	朝のみ		69.2%
伊勢原第一ホテル	伊勢原	112	ビジネス	有		89.3%
ホテルセレクトイン伊勢原	伊勢原	84	ビジネス	朝のみ		83.3%
FUJISAWA HOTEL EN	藤沢	60	リゾート	朝のみ		0%
8 h o t e l 湘南藤沢	藤沢	117	リゾート	有		93.2%
miss m o r g a n h o t e l	平塚	19	リゾート			0%
3 S H O T E L H I R A T S U K A	平塚	139	リゾート			98.6%
8 H O T E L C H I G A S A K I	茅ヶ崎	36	リゾート	朝のみ		91.7%

※ホテルの業態タイプについては、備えている機能等に基づき、浜銀総研が判断

出所：じゃらん (<https://www.jalan.net/>)、各社公式サイトなどを参考に浜銀総研作成

図表 32 寒川町周辺のホテル計画

名称	建設地	予定 客室数	タイプ	開業予定
東横 INN 茅ヶ崎市役所	茅ヶ崎市	261	ビジネス	2023 年度
ホテルリブマックス PREMIUM 平塚駅前 WEST	平塚市	-	ビジネス	2022 年度
ホテルルートイン 平塚駅前	平塚市	175	ビジネス	2022 年度

出所：週刊ホテルレストラン 2021 年 12 月 3 日号、各社公式ページなどを参考に浜銀総研作成

寒川町及び周辺地域（湘南～県央地域）の主要駅の乗降客数は図表 33 の通りである。周辺地域でホテルが立地している鉄道駅では、1 日当たり数万人規模の乗降客があるのに対し、寒川駅では 6,822 人であり、こうした駅と比較すると乗降客数が少ない。

図表 33 湘南～県央地域の主要駅の乗降客数（2019 年）

■JR（乗客数のみ、単位：人/日）

		定期利用	定期外	合計
東海道線	大船	33,750	65,176	98,926
	藤沢	35,840	73,033	108,873
	辻堂	18,829	40,579	59,409
	茅ヶ崎	17,538	38,240	55,778
	平塚	18,427	42,514	60,941
相模線	海老名	5,128	9,178	14,307
	寒川	2,169	4,653	6,822
横浜線	相模原	10,344	18,816	29,160
	橋本	23,221	42,106	65,328
	淵野辺	11,483	26,622	38,106
	古淵	7,643	15,358	23,002

出所：JR 東日本ホームページ

■小田急（乗降客数、単位：人/日）

	定期利用	定期外	合計
湘南台	58,944	33,132	92,076
藤沢	106,288	59,375	165,663
海老名	93,054	59,316	152,370
本厚木	98,212	53,579	151,791
伊勢原	32,398	19,307	51,705

出所：小田急電鉄ホームページ

4. ヒアリング調査結果に基づく町内のニーズと課題の整理

寒川町内における現状の宿泊等のニーズや今後のホテル誘致に向けた課題、あるいはホテル事業者の目から見た寒川町内でのホテル事業の実現可能性等については、統計資料や既存のレポート等では把握することが難しいと考えられることから、本調査では事業者等を対象としたヒアリング調査を実施した。

実施概要及びヒアリング調査から得られた情報について、以下のように整理する。

(1) ヒアリング調査実施概要

町内に現存する宿泊ニーズや、現状において地域に不足している機能等について把握するため、町内の事業者等に対するヒアリング調査を実施した。

加えて、寒川町の事業環境についてホテル事業者の視点からどのように評価されるかについて把握するため、近隣地域にてホテル事業を展開する事業者を2件選定し、ヒアリング調査を実施した。

図表 34 ヒアリング調査の対象事業者等

分類	調査目的
町内事業者等 (4件)	町内のホテル需要、地域に不足する機能等に関する 情報収集
ホテル事業者 (2件)	ホテル立地としての寒川町の事業環境評価・実現可 能性に関する情報収集

(2) ヒアリング調査から得られた情報の整理

①町内事業者等から把握された寒川町の現状と課題

町内事業者等を対象に実施したヒアリング調査の結果に基づき、町内の宿泊ニーズやホテル誘致にあたっての課題を以下のように整理した。

ア) 観光面での宿泊需要と課題

【寒川神社という有力な観光資源】

寒川町で最大の観光資源は寒川神社である。寒川神社は「相模一宮」と称される、格式や知名度の高い神社であり、神奈川県内や東京都内から多数の来訪者がある。

寒川神社では「八方除け」という、他にはない方式での厄除け儀式を行っており、ご祈祷の需要が非常に大きく、全国の神社の中でも飛びぬけてその件数が多いという特徴がある。コロナ禍以前には年間で 200 万人、1 月だけでその半数（三が日だけで 50 万人、参道入口から本殿まで人で埋まる状態）が来訪するという状況にあったが、コロナ禍により来訪者は減少している。

なお、コロナ禍以前の来訪者数は毎年ほぼ同様であり、これは「神社の施設容量の限界値に達している」という状況にあるためと考えられている。過去、寒川神社では数回にわたる建て直しを行い、その際に規模を拡張してきているが、それでもなお需要が施設容量を上回っていると推量される。

来訪者の主な交通手段は自家用車であり、神社周辺に 4 か所の駐車場が設置されている。三が日には神社周辺に交通規制がかかり、いずれの駐車場も進入禁止となるため、近隣の協力を得て駐車場を手配している。JR 相模線の宮山駅から徒歩 10～15 分程度ではあるが、相模線の本数が少ないこと等の理由から、自家用車の利用が多いとのこと。

上記のように、現状において寒川神社は西側に川が流れ、東側に産業道路があるため、用地の拡張性に難がある。そのため、神社の知名度に反して「門前町」のようなものが形成されておらず、神社への参拝やご祈祷以外の目的で訪れる人が少ない状態となっているのではないかと考えられる。

【寒川神社以外の観光・集客に関する資源が不足】

上記の通り寒川神社は非常に有力な観光資源・集客施設となっているが、それ以外の資源が挙がらない状況にあり、現状では、来訪者が神社に参拝した後に町外へ移動してしまっていると思われる。

宿泊を伴って来訪してもらうためには、神社以外の目的地を確立し、町内で周遊してもらうような状態にしていくことが重要であると考えられる。現状では商店街といったものが存在しないため、町民もあまり町内に出歩いていないのではないかと指摘もあったが、ホテル立地の実現に向けては、町内でのショッピング施設やレジャー施設といった環境整備に取り組んでいく必要がある。

また、現在はコロナ禍のために休止しているが、一部の工場では一般の工場見学も受け

入れている。町内には他にも多数の工場が立地しており、これらを資源として、工場見学等の産業観光に取り組んでいくことも町の魅力創出の一つの方法として考えられる。

イ) ビジネス面での宿泊需要と課題

【工場の設備点検・更新等に関する多数の来訪者が存在】

寒川町内には、自動車関連産業等の大規模な工場が多数立地していることから、設備の点検や更新等のため、保守管理サービスを提供する事業者が頻繁に来訪している。今回のヒアリング調査対象となったいずれの企業においても、年間で数百人規模の来訪者が見られるとのことであった。

なお、こうした設備の点検や更新は工場の操業に不可欠であり、かつ現地まで足を運ばなければできない作業であるため、サービス事業者等の来訪者数について、コロナ禍の影響はあまり見られないとのことである。

また、設備の点検や更新には特定の技術を持った業者が求められる等の理由から、近隣の事業者だけでは対応できない場合があるため、遠方からの来訪も見られる。そのため、宿泊を伴う出張客の需要は一定数存在しているが、現状ではこうした事業者が寒川町に出張する際、茅ヶ崎駅や海老名駅等の周辺に宿泊しているようである。これは町内に宿泊施設がないことに起因しており、町内で発生している宿泊需要を取りこぼしていると言える。

【町内企業の社員・関係者も多く来訪】

上記のような設備点検等のサービス事業者以外に、町内に本社を置く企業での、会議や商談といった目的でも多数のビジネス客が寒川町に来訪している。また、工場等での研修目的での来訪者も多数存在している。

なお、コロナ禍に伴う出勤制限等を契機として、全国の企業においてテレワークが普及し、会議や商談をリモート環境下で行うことが多くなってきており、その便利さが世間に浸透していることから、今後コロナ禍が収束しても、対面での会議等の頻度について以前ほどの水準には戻らないのではないかという見方もある。その場合、町内に本社を置く企業への自社関係者の来訪数については、コロナ禍以前よりも少ない水準となってしまう可能性がある。

一方、工場での研修については、実地での研修が必要であるため、今後も一定の需要が存続するのではないかと考えられる。

ウ) 宿泊以外の施設や機能に関する需要

ホテルが提供する宿泊以外の機能サービスのうち、寒川町内に現在不足していると考えられるものについてたずねたところ、宴会場や集会場といった、人が集まるための施設が不足しているとの声が挙げられた。なお、こうした需要には宴会だけでなく、研修や会議等、ビジネスシーンでの利用を目的として人を集める形での利用も含まれる。

現状で町内に存在する集会施設として、寒川神社の運営する「参集殿」があるが、それ

以外に数十人～百人規模の集会を行うことのできる施設はない。加えて、参集殿はいわば「ホテルの宴会場」といった、比較的格式の高い施設であり、利用料の面でもあまり気楽に利用できる施設ではないとのことであり、自社で大きな会議室等を保有している事業者以外では、集会施設の不足が顕著となっている。

町内の事業者において、新入社員や異動者、定年退職者等の歓送迎会、あるいは来訪した取引先との懇親会を行う場所がないことが指摘されており、こうした需要について、現状では町内で受け止めることができず、茅ヶ崎駅や海老名駅、本厚木駅等の周辺施設に流出してしまっているようである。

なお、寒川町の周辺地域を見渡しても宴会場・集会場として使用できる施設が限られていることも指摘されており、人が集まるための施設の不足については、寒川町のみならず湘南・県央圏域が抱えている課題であることがうかがえる。

②ホテル事業者から見た寒川町の事業環境の評価

寒川町の事業環境や事業実施可能性について、ホテル事業者への聞き取りを行った結果に基づき整理すると、以下の通りである。

ア) 通常のビジネスホテルの立地としてみた場合、事業の成立可能性は低い

【ビジネスホテルの立地には、人口規模・主要駅乗降客数等が不足】

先述のように、ホテルの事業可能性を判断する際の条件の例として圏域人口や乗降客数等が挙げられるが、この点において寒川町及び寒川駅では従来型のビジネスホテルが立地するだけの環境要件を満たしていないことが、ホテル事業者に対するヒアリング調査の際に指摘されている。現状において寒川町内にホテルチェーンの出店がないことから示唆されるように、現在の寒川町の事業環境はホテル事業が成立する状況にはなく、鉄道利用者を主要顧客とする大都市型の立地のビジネスホテルを寒川町内や寒川駅前に誘致するのは難しいと考えられる。

なお、ホテルの立地が難しいと判断される理由として、上記のほかにも観光資源の不足（寒川神社以外に目立った資源がないこと）や店舗・飲食店等の「賑わい」の不足、ホテルの建設が可能な土地の不足等が挙げられている。

【道路交通の利便性やビジネス客のポテンシャルについては一定の評価】

一方で、多数の工場が立地していることや高速道路等の交通環境が良いことから、ビジネス利用に関しては一定の需要が期待できる環境にあるということについては、ホテル事業者側からも評価されているようである。寒川町内のビジネス目的での主たる利用者像（工場等の設備の点検・更新等を行う、自動車で来訪するサービス事業者）を考慮すると、駅前型ではなく、一定数の駐車場を備えたロードサイド型のホテルであれば実現可能性は高いと考えられる。ただし、現状においてホテルの立地が可能な用途地域区分の土地は町内には少なく、そうした条件下で駐車場を含めた、ある程度の広さを持った用地を確保する

ことが求められることとなる。

なお、駅前型のホテルの事業可能性について、今後の開発（例えば新幹線新駅の設置やリニア開通等）により相模線及び寒川駅の位置づけが変わってくるようなことがあれば、検討の余地は出てくるかもしれないとの指摘があった。ただし、現状において新幹線新駅の検討が進んでいないこと、リニア新幹線開通が地域の交通にどのような影響を与えるかについて未知数であることなどから、短期的には駅前型のホテルを誘致できるほどに状況が変化する可能性は低いのではないかという意見もあった。

イ）新たな形態での事業展開の可能性

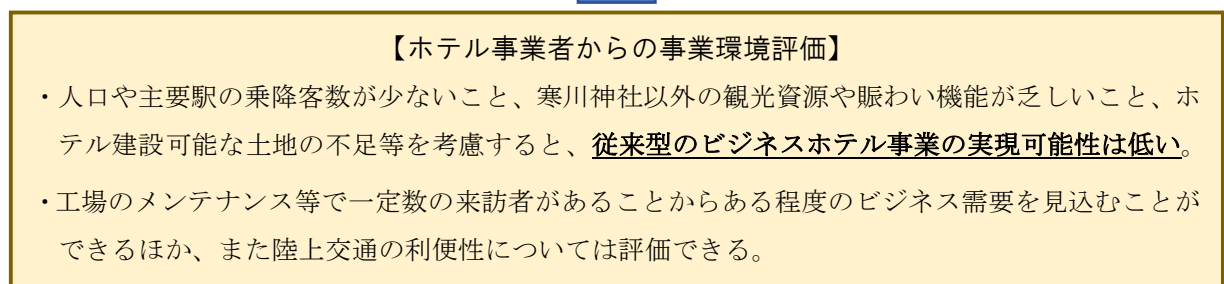
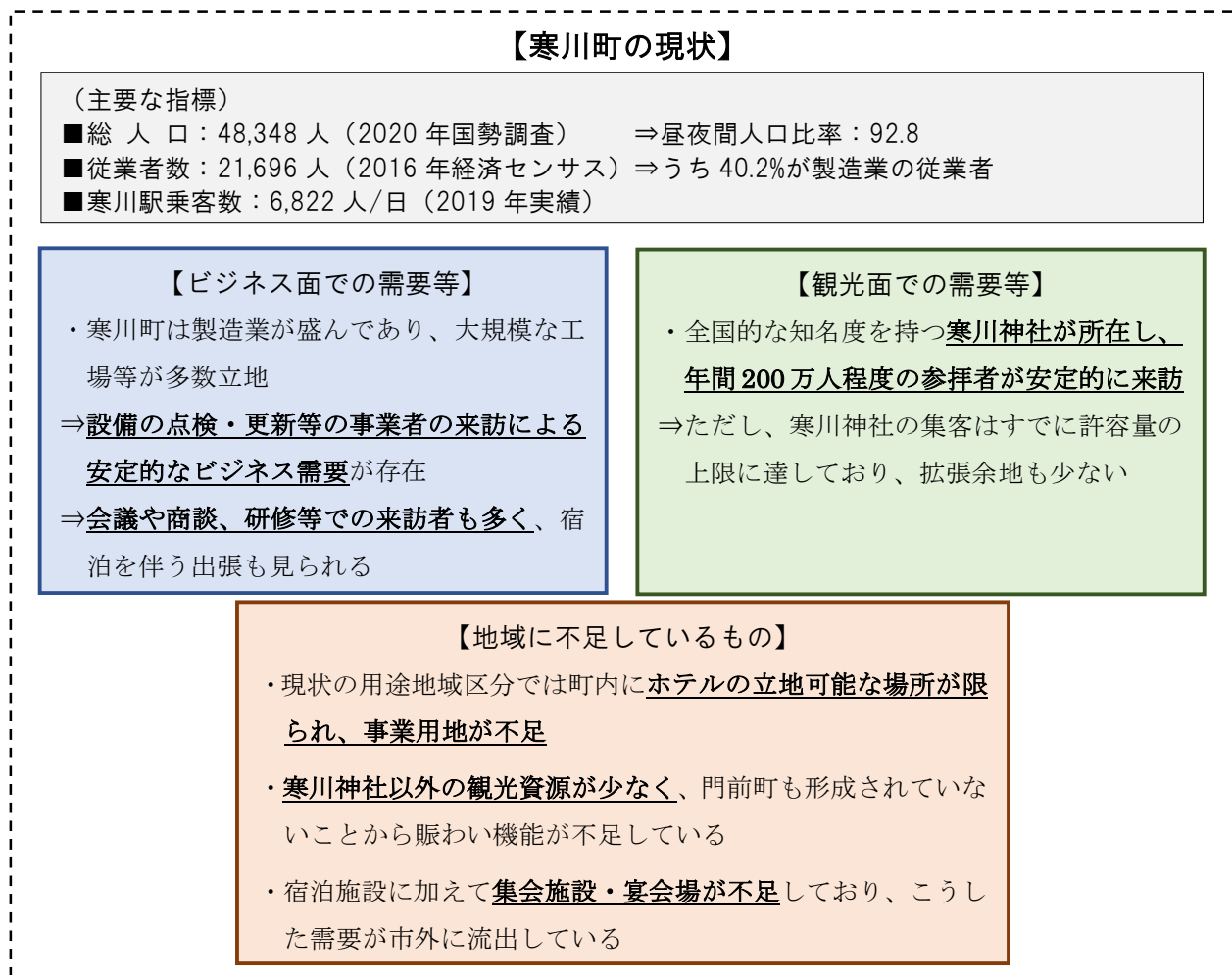
上記の通り、通常の事業形態のビジネスホテルでは寒川町内での事業成立が難しいと指摘される一方、新たな事業形態のホテルであれば、町内へ出店できる可能性もあるのではないかと意見があった。

5. 調査結果のまとめと今後取り組むべき方向性の提案

これまでに見てきた各調査の結果に基づき、現状におけるホテル立地可能性と課題について改めて整理するとともに、今後取り組むべき方向性について提案する。

(1) 現状におけるホテル立地可能性と課題

各調査の結果に基づき、現状におけるホテル立地可能性と課題についての概観をまとめると、以下のようになる。



このような調査結果を踏まえると、今後の寒川町内へのホテル誘致に関する取組を進める上では、以下のような課題への対応を検討していく必要があることがうかがえる。

■町内の需要の「取りこぼし」が生じている

- ・町内の工場の点検・整備に関するサービス事業者を中心に、多くのビジネス客が来町しており、中には宿泊を伴う出張も見られるが、現状では町内に宿泊施設がないため、町外に宿泊している。

⇒これには単に「寝る場所がない」ということに加えて、町民や町内就業者等が日常の食事や買い物をする場所等が不足しているとの指摘がある。

- ・町内には企業や住民が宴会・集会等の人の集まる行事を開催することのできる施設が不足している。現状では寒川神社の参集殿が唯一と言っていい集会施設であるが、格式が高く、用途が限定されてしまっており、多くの需要は町外に流出してしまっている。

⇒大がかりな会議や集会以外にも、町内の企業での宴会需要（コロナ禍により現在は自粛されているが、潜在的な需要は存在）が見込まれるが、現状では茅ヶ崎駅や海老名駅方面の施設や店舗を利用することが多い。

■賑わいや観光の目的地となる場所が不足している

- ・寒川神社には例年安定的に多数の参拝者が訪れているのに対し、それ以外に観光の目的地となる場所が不足しており、町内で周遊するようなコースが確立されていない。そのため、わざわざ宿泊して、町内での滞在時間を延ばすような必要性が弱いのが現状である。

⇒寒川神社の観光客の受入容量はほぼ上限に達しており、一方で拡張の余地はあまりないことから、集客力を高めるためには寒川神社以外の観光資源を開発していくことが必要になると考えられる。

■ホテルの立地に適した用地の確保が必要

- ・現状の用途地域区分や土地の利用状況から見ると、町内でホテルを建設可能な場所は限られ、主に町の西側、相模川に近いエリアを中心に検討することになると考えられる。ホテル事業者側では交通利便性や周囲の環境等の要素を踏まえてホテルの立地可能性を検討することとなるため、ホテル事業者の視点から見て良好な環境となる候補地を検討し、必要に応じて町役場との調整を行っていくことも必要になると考えられる。

（２）今後のホテル誘致実現に向けた取組の方向性

本調査の結果を踏まえ、今後のホテル誘致に向けて考えられる取組の方向性について、以下の通り提案する。

①ホテルのタイプや求める機能の検討

町内事業者へのヒアリング結果からは、現状においては純粋な宿泊機能のみのホテルが求められているわけではなく、町民・町内事業者の多様なニーズに応え、町の活性化に資する施設となりうるホテルが求められていることが把握された。

上記を踏まえ、集会場・宴会場、研修室等を備えたコンベンション施設として、寒川町及び周辺地域の産業振興に資する施設を検討することが望ましいのではないかとと思われる。

②まちの賑わいづくり

現在の寒川町には、寒川神社以外の観光資源が少なく、宿泊を伴う観光客が集まりにくい状況にある。さらに、町外からの観光客の目的となる場所が不足しており、加えて町民が集い賑わう場所にも乏しい。

寒川神社は有力な集客施設であるが、周辺に門前町のような場がなく、また拡張性に難があり今後新たな整備を行うことも難しいと考えられるため、宿泊する顧客層を多様化させるためには寒川町内に神社以外の「訪れたい場所」を作っていくことが求められる。

さらに、地元の企業や個人事業主を巻き込み、町内一丸となって、神社周辺や駅前にかけての動線に人が集まる場と賑わいを創出していくことが重要と考えられる。

③町内関係者との協力関係の構築

上記①で検討したようなホテルを町内に誘致し、事業を成立させるためには、町内企業への来訪者や、工場に出入りする業者、あるいは観光客の宿泊需要を捉えるだけでなく、宿泊以外の機能（宴会・料飲等）についても多数の利用者を獲得することが必須となる。

一方で、ホテル事業者から駅前型のホテルの立地としては不適とみなされていることから、もわかるように、人口規模や人流の規模といった点において、現在の寒川町は厳しい事業環境にある。さらに、町内の宴会・外食産業の基盤も十分ではないことから、ホテルの誘致を実現するには、それを取り巻く地域の環境整備を進めていくことも求められる。なお、ホテルの立地及び環境整備の取組によって、町内及び周辺地域の事業者（飲食業者等）に対し競争の激化といったマイナスの影響を及ぼす可能性もあることから、なるべく良好な関係を構築できるよう、環境整備の進め方については様々な視点から検討を行う必要がある。

環境の整備及び誘致後のホテル運営に関して地元の事業者との協力関係は不可欠であり、単にホテル事業者の事業が成立することだけでなく、地域にとって利益（金銭的なもの以外を含む）をもたらす形の事業を構想する必要がある。

ホテルの整備事業については、寒川神社・町内の事業者・行政・ホテル事業者等、様々な主体を交えて検討していくことが望ましいのではないかと考えられる。